

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 草加市カヌー協会 「草加パドラーズ」

27A-16

代表者：代表理事 大原 宏行

URL :

1. 活動が必要とされた状況

平成 26 年、草加松原が文化庁の「おくのほそ道の風景地」として名勝に指定されたが、側を流れる綾瀬川が、悪臭、不法投棄ゴミで汚れていたため、カヌーで浮遊ゴミの回収活動を始めた。市民と行政が連携して、川の再生を図ることが重要な課題であった。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成 26 年 12 月に浮遊ゴミの回収活動を開始し、毎週水、土、日、祝日の午前 8:30 から約 3 時間、河川の美化活動を続けて令和 6 年で 10 年目となった。

令和 6 年は、活動回数 173 回、参加人数の合計は 1283 名、ゴミの回収量は 595 袋（45L 換算）であった。主なごみはペットボトル、空き缶、空き瓶、発泡スチロール、コンビニ弁当殻、ビニール袋、木材などであるが、時には、自転車や冷蔵庫、タイヤなどの大型の不法投棄ゴミも拾うことがある。環境省の春と秋の「海ゴミゼロウィーク」にも参加協力した。

今年度は、第 4 回松尾芭蕉杯を開催。活動日にチャレンジデイと称する活動日を設け、カヌーの手入れや修繕、母船として活躍しているカナディアンカヌーの操船練習、沈没訓練に参加したりして、会員の安全意識やカヌー技術の向上を図った。

体験会としては、夏休みカヌー教室の他に、umipla（海のプラスチックごみをアップサイクルして環境問題に関心を持ってもらう活動をしているインスタグラマー金田優さん）との交流会も行い、SDGs⑪住み続けられるまちづくりと⑭海の豊かさを守ることについて体験しながら考えてもらうことができた。



3. 活動の成果

当初は会員 2 名で始めたが、令和 6 年 12 月現在の会員数（賛助会員を含む）は 154 名。10 年間で、活動回数は 1,302 回、参加総人数は 12,735 名、ゴミの回収総量は 7,557 袋。ゴミ袋を積み上げると 3778.5m となり、富士山(3,776m)を越えた(45L ビニール袋 1 袋分＝50cm に換算)。今年度も体験会などで、近隣の小中高生や学校の先生方とつながりを広げることができ、次年度に向けて新たな歩みを進める足掛かりができた。また、広域連携している足立区、越谷市、春日部市の団体の活動への協力も率先して行うことができた。

4. 今後に残された課題

2 年前に大幅に理事が変わって世代交代し、仕事を持ちながらの子育て世代の理事ばかりとなった。そのため、週 3 回、祝日も活動する体制づくりや行政などとの平日対応大変に苦慮した。また、夏は高温化による熱中症危険アラート発令が多く、中止の判断をせざるを得ないことが多かった。川の現状もヘドロの体積と水草の繁茂がひどく、ボートを出すことが難しくなっている。課題はあるが、引き続き、水辺を活かした安全安心で潤いのある豊かな街づくりを、教育機関、行政機関と連携して取り組んでいく。